

## 終刊の辞

東京佐渡三田会会長 山本 研

田中圭一先生講演集は本集（第八集）を以って終刊と致します。

東京佐渡三田会は首都圏に在住する佐渡出身の慶應義塾大学同窓生の集まりですが、会員の中から佐渡を離れても佐渡のことをもっとよく知りたいとの声が高まり、分科会の一つとして「郷土史研究会」を設けました。

平成二年二月、当時筑波大教授であった田中圭一先生をお招きして、第一回の講演会を開催したのが「郷土史研究会」の活動の第一歩でした。それ以来、先生の佐渡郷土史についての高い見識と佐渡弁丸出しのユーモアあふれる語り口に魅了され、講演会には東京佐渡三田会会員ばかりでなく多くの在京佐渡出身者が集まり会場を埋めるといった状況が続きました。

こんなに面白くて為になる話を聞きつ放しにするのではなく、記録に残してより多くの人に佐渡の史実を伝えられるようにしようと、平成十年四月に田中圭一先生講演集を発刊

しました。

以後、年二回のペースで講演会が開催され、並行して講演集も数回の講演ごとにまとめて刊行されてきましたが、平成十九年頃から田中先生が体調を崩され、また首都圏佐渡連合会の機能が充実して来たこともあり「郷土史研究会」の運営を平成二十年に同連合会に移管しました。残っていたのが田中先生講演のうち記録可能で未刊行の分をまとめる作業でしたが、本集の刊行によりシリーズが完結致しました。

あらためて第一集から読み通してみると、聴講時の雰囲気そのままに我々の知らなかった佐渡の歴史について、如何に多くのことを教えてもらったかを実感させられます。

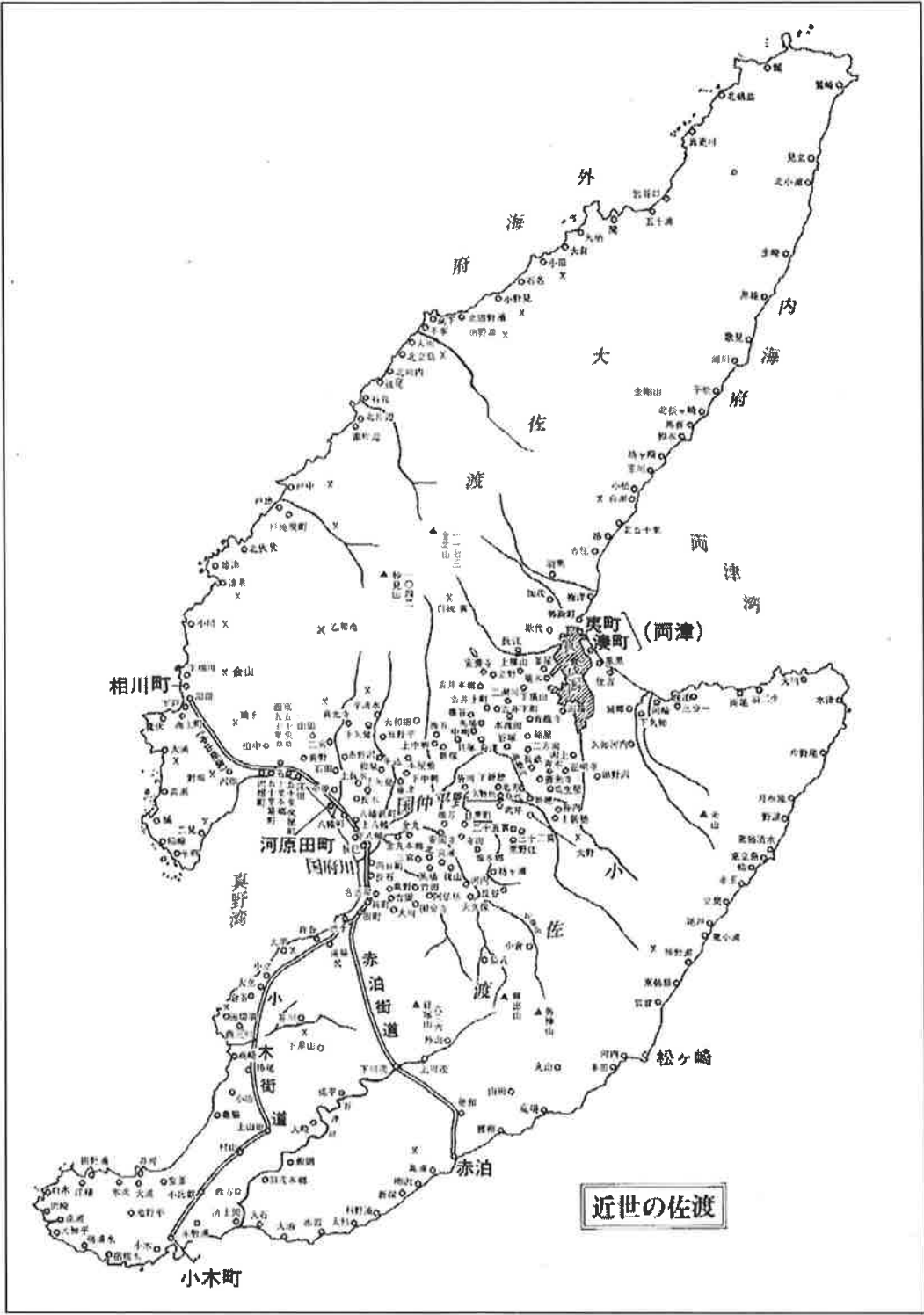
そしてこの小冊子のシリーズが佐渡の歴史を学ぼうとする後世の人にとっても大切な面白い資料であることを確信しております。

心残りには田中先生のご健康のすぐれぬことです。少しでも早いご回復をお祈り致します。

最後に、東京佐渡三田会「郷土史研究会」の発足から今までのご貢献に対し故土屋重五

氏、故梶井直紹氏、池田正雄氏、並びに故猪股慶四郎氏、故山本静枝氏、田端榮社郎氏に厚くお礼申し上げます。殊に故山本氏と田端氏の講演会開催と講演集刊行における並々ならぬご尽力に深甚の謝意を表します。加えて、講演会を盛り立て、下さった多くの方々、講演集とりまとめに惜しみないご助力を賜った方々にあらためて感謝申し上げます。

平成二十八年四月吉日



表紙題字・中川泰峯

文責・東京佐渡三田会  
田端榮祉郎